

JLA 短大・高専図書館部会報

「図書館仕舞い」



滋賀文教短期大学 国文学科 井上 勝

さて、新たな副部長就任者が原稿を求められてのタイトルが「図書館仕舞い」？

これは、ジョークか。いえいえ、本当の話です。

少子高齢化が進む現在の日本で、大学への進学率は伸びてはいるものの、そもそも分母にあたる18歳人口は減少の一途をたどっています。しかも、4年制大学、男女共学志向が進み、短期大学はどこも青息吐息の状態です。本学も滋賀県長浜市の当地に移動開学して50年、今年度の新生が最後の受入となり、2027年3月をもって閉学となることとなり、残りはあと1年半余りです。とは言え、教育、研究を支え、学生・教職員の憩いの場としての機能は、閉学の時まで果たしていかなければなりません。

「図書館仕舞い」と言っても、事情はいろいろです。今までから、閉学以外の理由、例えばキャンパスの統合だったり、学校同士の合併だったりでの移設というパターンもあったでしょう。本学の場合は、学校法人として高校からスタートしていますので、法人としては高校2校が本学の閉校以降も存続します。一部の資料はそちらに移

管ということにはなります。しかしながら、高校の図書室なので、国文学科、子ども学科の2学科だけとはいえ、50年以上の蓄積を持ち、6万冊余の蔵書を抱えた短大の図書館の資料をそのまま渡せるわけではありません。コンピュータシステムも共通ではありませんし、背ラベル等の装備も違えば、データのバーコード体系も全く違うので、移管と言っても、財産の管理が短大から高校に移るという帳簿上の変更は事務的にできても、現場の資料を動かすことは、実質的には新規受入と変わりがなく、かえって実務的には手間が増えてきます。しかも、法人内で移管できる資料は全蔵書のほんの一部にすぎません。残りの資料をどうするかが、悩みの種です。

資料以外にも、書類を保存分と廃棄分とに選別し、また、用途変更になる可能性の高い、開架室、書庫の棚等の備品類の移動、除却等ちょっと考えただけで、その事務量を想像すると途方に暮れてしまいます。

残念ながら、おそらくこれから近い将来に、閉学を余儀なくされる短大は続いて出てくると思われます。その際、前例として、少しでもお役にたてればというところです。

短期大学・高等専門学校図書館部会について

新型コロナウイルスによる世界的パンデミックは落ち着きつつあり、日本においても季節性インフルエンザと同様の5類に移行しておりますが、再拡大の懸念を考慮し、本部会規程第10条第5項の規定により、2024年度の部会総会は、書面決議による方法で実施しました。

このことを部会ホームページにて告知し、6月7日午後5時（必着）を締め切りとして「書面決議書」の提出をお願いしました。

なお、部会総会の成立要件を本部会規程第9条の定めにより、所属会員の10分の1以上の「書面決議書」の提出をもって成立するものとなりました。4月30日現在の部会員数は164会員（団体134・個人30の合計）であり、部会総会の成立要件（部会規程第10条4項：所属会員の10分の1以上の出席）は17会員以上となります。締め切り日までに「書面決議書」の提出件数が84件あり、部会総会は成立しました。

第1号議案から第5号議案までの書面決議の結果は以下の通りです。

第1号議案 短大・高専図書館部会事業報告及び決算報告について（賛成83 白票1）

（1）活動報告

- ・2023年度の部会総会は、新型コロナウイルス感染症の完全終息には至らず、再拡大の懸念を考慮し、前年度に引き続き書面決議による方法で実施しました。その結果、「書面決議書」の提出が39件あり、部会総会は成立し、議案は原案のとおり承認されました。
- ・幹事会については、2023年6月15日、ルノアール日本橋高島屋前店会議室にて開催

し、幹事会の役員体制、事業計画、予算執行、ワークショップ等について、確認を行いました。11月9日、第2回幹事会はワークショップ終了後、「情報交換会」として開催しました。

- ・短大・高専図書館部会員の「Eメールアドレス調査」を実施しました。部会員への各種の連絡方法として、Eメールを活用するため、2023年6月30日よりハガキによるEメールアドレス調査の結果、短大・高専図書館の施設会員については、1館を除き回答がありました。今後はEメールを活用した部会活動を進めていくことになりました。
- ・ワークショップについては、2023年11月9日（木）に「東京臨海広域防災公園防災体験学習施設 そなエリア東京」（有料ガイド付き90分コース）にて見学研修が開催され、当日の参加者は、参加者6名、幹事5名、計11名でした。
- ・部会報第61号については、編集作業の遅れから、2024年4月以降の発行となりました。なお、部会ホームページに電子版をアップしました。

（2）会計報告

《収入》

部会活動費	85,000円
合計	85,000円

《支出》

研修費	16,800円
会議費	10,030円
通信運搬費	10,626円
印刷製本費	0円
雑費	540円
合計	37,996円

第2号議案 短大・高専図書館部会事業計画及び予算について (賛成 83 白票 1)

(1) 事業計画

- ・2024年度の部会総会は、本部会規程第10条第5項の規定により、書面決議による方法で実施します。
- ・幹事会については、6月、10月及び2025年3月の計3回を予定します。幹事会の開催については、対面会議を原則としつつ、状況等によりメール会議等による開催も想定します。
- ・部会の幹事体制を強化するため、新しい幹事の就任活動に務めます。
- ・ワークショップについては、2024年11月、明治新聞雑誌文庫及び東大総合図書館見学研修を予定します。
- ・部会報の発行については、第62号（電子版及び紙版）を2025年3月に発行を予定します。

(2) 予算

《収入》

部会活動費	83,000 円
合計	83,000 円

《支出》

ワークショップ経費	8,000 円
会議費	30,000 円
通信運搬費	5,000 円
印刷製本費	30,000 円
消耗品費	7,000 円
雑費	3,000 円
合計	83,000 円

第3号議案 短大・高専図書館部会幹事の選出について (賛成 83 白票 1)

<公立短大>

森口真司 大分県立芸術文化短期大学
附属図書館

実務担当：阿南修次

<私立短大>

久野高志 (作新学院大学女子短期
大学部)
石田孝夫 (個人会員)
毛利和弘 (個人会員)
松尾昇治 (個人会員)
藤懸徳仁 (個人会員：亜細亜大学)

<高専>

近藤久直 (沼津工業高等専門学校)

第4号議案 短大・高専図書館部会図書館部会部会長・副部会長について

(賛成 83 白票 1)

部会長 久野高志 (作新学院大学
女子短期大学部)
副部会長 森口真司 (大分県立芸術
文化短期大学附属図書館)
副部会長 近藤久直 (沼津工業高等
専門学校)

第5号議案 短大・高専図書館部会推薦の代議員について (賛成 83 白票 1)

代議員 (定数2名)

片野裕嗣 (埼玉東萌短期大学附属
図書館)
宮崎泰宏 (鈴鹿工業高等専門学校
図書館)

※代議員の任期は4年(2022年度から2025年度)になります。

令和6年度 「短大・高専図書館部会ワークショップ」 報告

令和6年11月7日（木）14:00～15:30から「明治新聞雑誌文庫」「東京大学附属総合図書館」（いずれも東京大学本郷キャンパス地区）にて令和6年度のワークショップが開催され、参加申し込み者は8名の参加者となりました。

「明治新聞雑誌文庫」（東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター内）

明治新聞雑誌文庫が収集・保管している明治期からの新聞・雑誌資料群をはじめ、図書館史の学びに深く関係がある『東天紅』及び宮武外骨氏に関する資料群や『明治新聞雑誌所蔵雑誌目録』『明治新聞雑誌所蔵新聞目録』、また、新聞記事調査のレファレンスツールとして有名な『明治ニュース事典』『大正ニュース事典』『昭和ニュース事典』編纂と当文庫との関係資料などの見学と説明を当センター専任職員にいただきました。

2020年1月より、新型コロナ以前より計画された耐震改修工事を約1年半かけて行なわれました。これは昭和4年に現在地に移転して以来、初めての移転をとまなう工事だったそうです。同文庫内は、安全停止バタイクの一般的な電動書架に各列と各連に温湿度センサーを設け、また壁には温度と湿度そして温湿度が一目でわかるモニターが設置され、担当者は書庫内の状態をモニターで確認し、常に良好な状態に保てるように空調の管理をしているとのことでした。

「東京大学総合図書館」

「明治新聞雑誌文庫」を見学後、同キャンパス内にある「東京大学附属総合図書館」内の1階記念室・3階ホールと別館を当大学の専任職員による説明をしていただきました。

同総合図書館は2012年にスタートした新図書館計画により、別館の新築工事と本館の耐震改修工事が行われ、2020年11月にグランドオープンとなりました。各フロアに耐震を施す一方、本館の外観を保存しながら内面

を改修し、約90年余の歴史を感じさせる新図書館へリニューアルとなりました。中でも4階フロアは、東京大学内に分散していたアジアに関する研究資料が集約され、アメリカやカナダの大学アジア図書館のようなアジア地域別毎に資料が配架され、新たにアジア研究図書館として開館しました。また別館は、グループ学習やディスカッション、セミナーや講演会を開催することができる開放感ある学修スペースが設けられ、東京大学の次世代に繋ぐ新たな学術拠点への意気込みが伝わってくる図書館となっていました。

ヨーロッパ情勢、建築部材や半導体不足などによる建築費用が年々高騰してきています。そうした状況下で、これからの各大学・短期大学における記念事業による図書館の新築やリニューアルに際し、図書館の歴史と資料保存の方法、学内での図書館の位置づけについて、とても参考になる今回のワークショップでした。



発行 日本図書館協会短大・高専図書館部会
代表者 久野 高志
発行日 2025年10月末日
〒104-0033
東京都中央区新川1-11-14
Tel 03-3523-0811
